

わくわく元氣! 狛江ランチ逸品コンテスト 入賞作品5点が決定

最優秀作品賞は「お楽しみオムライス」

7月1日から9月30日まで実施された「わくわく元氣! 狛江ランチ逸品コンテスト」の入賞作品が決まり、11月11日の第36回狛江市民まつりで表彰式が行われた。



ランチ逸品コンテストの受賞者と市長（前列中央）

有効投票数260票を集計した結果、最優秀作品賞が「お楽しみオムライス」(レストラン プティ・クー)、優秀作品賞が「狛菜おうぎ膳」(日本料理 扇屋)、「こ

ま玉井」(つきじ天六)、「狛江野菜と塩麴のパスタ」(ボンボニエール)、「銀ダラの塩こうじ焼とほたての炊き込みご飯」(彩りごはん)となった。市役所会場に設けられた

「おたのしみステージ」で行われた表彰式では、受賞者ひとりひとりに市長から表彰状と盾などが手渡された。

狛江市では今後、入賞作品を「狛江ランチ逸品」として推奨していくことにしており、各店とも人気メニューに育てたいと意気込んでいる。

表彰式の後には、コンテスト参加店で利用できるランチ券5,000円分が当たるじゃんけん大会も行われ、多くの歓声が上がっていた。

ランチ逸品コンテストは、狛江市内の飲食店が狛江の野菜を使い、趣向を凝らして創った新作ランチを、参加者が各店を回って味わった上で投票し、その結果によって入賞を決める方式で行われた。投票した人には抽選でラ

- 》最優秀作品賞《
お楽しみオムライス
レストラン プティ・クー
猪方1-15-4 ☎3488-0078
- 》優秀作品賞《
狛菜おうぎ膳
日本料理 扇屋
東和泉1-19-1 ☎3480-0111
- こま玉井
つきじ天六
元和泉1-8-12 泉の森会館1F
☎3430-6800
- 狛江野菜と塩麴のパスタ
ボンボニエール
西野川11-20-7 ☎3480-1122
- 銀ダラの塩こうじ焼とほたての炊き込みご飯
彩りごはん
東和泉1-30-13 ☎3489-1730

ランチ券が送られた。ランチ券は平成25年1月31日まで使用できる。

海外に広がる絵手紙の輪

6月15日から11月23日(いいふみの日)まで募集を行っていた事業「ひろがれ絵手紙の輪」に、予想を大幅に上回る6,000枚を超える絵手紙が市役所に寄せられた。狛江市から広がった絵手紙の輪は、北海道から沖縄に至る日本全国のみならず、海外にも広がり、ブラジルやイギリス、タイなどからも絵手紙が届いた。絵手紙を募集した際のテーマ

「出会い」は、狛江駅前に設置されている巨大絵手紙(小池邦夫さんデザイン)に添えられた「動かなければ出会えない」の言葉にちなんだテーマで、寄せられた絵手紙の中には家族や友人等、大切な人との出会いに限らず、思い出の品物との出会いがかかれた作品等もある。

来年1月25日から2月13日は狛江市役所ロビーで、3月1日から4日は泉の森会館で作品が展示される予定だ。



届いた絵手紙



篠田由子さん(和泉本町)

絵手紙の魅力「絵手紙を始めて10年ぐらいいになります。絵手紙サークルの作品展を見に行くと、自分に出来るかわからないけれどやってみようと思ひ、絵手紙を始めました。絵手紙は、見たまま、感じたままにかけて、受け取った方に喜んでいただけたのがうれしいです」

ひろがれ 絵手紙の輪

「狛江ー絵手紙サポーター」から寄せられた絵手紙とコメントをご紹介します。問い合わせ ☎3430-1111 狛江市地域活性化課市民文化係



セイバンモロコシ

現在、日本の山野や川は外国から入ってきた帰化植物に占有されてしまうと憂慮されるほどになり、この



狛江駅南口に広がるアシ原と田園風景

東和泉の細井栄さんが撮影した昭和14年頃の狛江駅南口ロータリー付近。

細井さんは、自ら研究開発した音響機器の工場を狛江に建設する父に連れられ



河川敷で勢力広げるセピア色の穂や花

ままでは日本在来の植物の多くが絶滅危惧種や稀少種になってしまうのではないかと心配されている。

狛江市の多摩川や野川の河川敷は、オギ(よくススキと間違えられるが、ススキは河川敷にはほとんど見られない)、ヨシ(アシ)、マコモなど、高さ1.8m前後にもなる大型のイネ科の植物が茂り、白い穂をなびかせる姿は秋の風物詩になっている。しかし、その下方にはホソムギやネズミムギ、コセンダングサ、コマツヨイグサ、

シロツメクサ、アカツメクサなどの帰化植物が進出している。そのなかで、アレチウリと並んでオギやヨシを脅かしているのが、平成に入ってから見られるようになったセイバンモロコシで、世界的に害雑草として知られている。

地中海沿岸原産の高さ1~2mにもなる多年草のイネ科の植物で、夏から秋にかけて長さ20~50cmの円錐状の褐色の花序に多数の小穂(花)をつけ、強い根茎を張って群生し、他の植物を圧倒する。穂の出ない6~7月はススキと間違われるほど、よく似ている。



肖像の狛江 写真家 倉持通夫

の畑、水田が続いていた。川には洗い場があり、ダイ

コンなどを洗う光景を見たという。23年に細井さんと結婚したユリ子さんによると田園風景は戦後しばらく続き、3人の子のおむつを洗い場で洗濯した。細井さんは30年代前半に子ども



明るいセピア色の穂や花がめだつためか本や雑誌の野草紹介に取り上げられることもあり、自然観察会で尋ねられることも多い。

1945年前後に関東地方で見つかった以降、繁殖地を広げ、東北地方以南の本州や九州で見られるようになった。例年なら11月には花期が終わっているが、今年は12月ごろまで見られそうである。

英語でジョンソングラスと呼ばれ飼料に用いられるが、若葉を食べた家畜が中毒を起こすこともある。

文と写真=倉持通夫(日本植物友の会参与、狛江植物同好会幹事)

たちにバイオリンを習わせていたが、その練習の音と、アシ原で鳴くウシガエル(カエルの一種)の声を間違えたこともあったという。

取材・写真協力=細井栄さん、細井ユリ子さん